

学童期からの悪化と全身落屑・脱毛を経て睡眠と皮膚状態が戻った青年期アトピーの経過 (17 歳 女性)

症例 ID：001-17-OC | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

小学 6 年生頃に一部の皮膚症状が出始め、中学 1～2 年の冬に悪化し、中学 3 年の冬には体、顔、関節へ広がりました。市販薬を含む外用薬を顔などへ多量に使用し、首の落屑も続いていました。高校 1 年時に松本医院で治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	病院処方薬および市販外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	小学 6 年生頃から高校 1 年頃まで断続的に使用しました。
中止時期	高校 1 年頃の治療開始時です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学 6 年生頃	発症	体の一部に症状が出始めました。
中学 1～3 年	悪化	冬ごとに悪化し、体、顔、関節へ広がりました。
高校 1 年頃	治療開始	外用薬を中止し、治療を開始しました。
開始約 1 か月	症状の強い時期	皮膚が硬くなった後、全身の落屑、亀裂、浸出液、不眠がみられました。
冬季	脱毛	頭髮が広範囲に抜け、外出が難しい時期がありました。
その後	回復傾向	短い頭髮が生え始め、体の皮膚症状も軽減しました。
記録時点	生活変化	夜眠れるようになり、周囲から皮膚の改善を指摘されました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後に全身の皮膚が剥け、鼻下・口・関節に亀裂が生じ、浸出液と不眠、脱毛が重なった時期です。

5. 困りごと

- 全身の落屑と浸出液で衣類や寝具が濡れました。
- 指の亀裂と腫れで手洗いや関節運動が困難でした。
- 脱毛と周囲の視線への不安から外出できない時期がありました。

6. 経過のまとめ

頭髮は短い毛から再び生え始め、皮膚症状も軽減しました。

記録時点では夜に眠れるようになり、通常の日常生活を送れるようになっていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。